

妙高市教育研究会「生活科部会」活動報告

教科・領域部会生活科部長

妙高高原南小学校 倉俣 純司

1. はじめに

妙高市教育研究会生活科部会では、例年、「夏の一斉研修」に市内小学校の生活科部員全員が実践レポートを持ち寄り、代表者が実践発表を行い、その後、小グループに分かれて情報交換会を行ってきた。本年度は、小学校において新教育課程が完全実施されたことを受けて、各教科・領域ごとに伝達講習が行われた。生活科部会では、新教育課程研究集会出席者から下記の内容で伝達講習を受け質疑応答を行った後で、例年のように各校の実践を基に情報交換を行った。

2. 伝達講習内容

(1) 新学習指導要領を踏まえた評価の観点では、何が新しくなったか。

はじめに、新学習指導要領の評価の観点の変更点について説明があり、その後、生活科の評価について話が進んでいった。

「関心・意欲・態度」	→	「関心・意欲・態度」
「思考・判断」	→	「思考・判断・ 表現 」
「技能・表現」	→	「 技能 」
「知識・理解」	→	「知識・理解」

(2) 23年度「新潟県小学校新教育課程研究集会資料」生活科から

①生活科の評価の観点は変わったか

生活科の評価の観点「生活への関心・意欲・態度」「活動や体験についての思考・表現」「身近な環境や自分についての気付き」は、今までと変わらないこと、学力の三要素と関連付けて整理できることの説明があった。また、観点の趣旨についての説明の中で、3つの観点に関連し合っていること、一人一人の子どもよさに着目した評価が求められていることを全体で確認し合った。

②生活科の新しい学習評価のポイントは何か

新しい学習評価のポイントについては、単に説明を聞くだけのスタイルではなく、4つのポイントについて穴埋め形式のワークシートを用いて、全員が資料を参照しながらポイントを理解していくという形式で講習会が進められた。資料の特に大切なところは、アンダーラインが引かれており、普段から意識しておかなければならないことや留意すべき点について具体的な例を挙げながら全体で共通理解を図った。

3. おわりに

十分な時間設定ができず、また、一度説明を聞いただけでは理解が深まらない点もあったが、先進的な取組も参考にしながら実践を通して理解を深めていこうということになった。ただ、そのことで評価に対する負担感が高まらないよう配慮し、言語活動の充実とも結びつけながら新指導要領の趣旨に基づいた生活科の学習を着実に進めていくようにしたい。